

## 執筆者紹介

(担当章順、敬称略)

### リザール・スクマ (第1章)

インドネシア戦略国際問題研究センター (CSIS) 所長。イスラム団体ムハマディアの中央理事会国際関係部部长、インドネシア国防省戦略国防見直しに関する国家委員会メンバーを務める。国家防衛法案策定委員会 (2000～2001年)、国軍法案策定委員会 (2002～2003年) メンバー。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE) で博士号取得 (国際関係論)。専門は、東南アジアの安全保障問題、ASEAN、インドネシアの国防・外交政策、軍改革、イスラムと政治、インドネシアにおける政変。主な著作に *Security Operations in Aceh: Goals, Consequences, and Lessons* (Washington DC: East-West Center, 2004); *Islam in Indonesia's Foreign Policy* (London: Routledge, 2003); *Indonesia and China: The Politics of a Troubled Relationship* (London: Routledge, 1999) がある。

### タン・シュウ・ムン (第2章)

マレーシア戦略国際問題研究所 (ISIS) 外交・安全保障部長。前職はマレーシア国民大学 (UKM) 上級講師。アリゾナ州立大学 (ASU) で博士号取得 (政治学)。専門は、東アジアの安全保障と日本の外交関係。国際学会、マレーシア社会科学会、マレーシア・日本学会運営委員会メンバー。外交・対外政策委員会と国家安全保障会議にも定期的に参加。マレーシアや国際学術雑誌、編著作に多数寄稿。

### ハーマン・クラフト (第3章)

フィリピン戦略開発問題研究所所長兼フィリピン大学政治科学部准教授。専門は、フィリピン及び東南アジアの安全保障。主な研究業績として “Human Security in Southeast Asia: Changing Security Norms in ASEAN?” in Chantana Banpasirichote, Philippe Doneys, Mike Hayes, and Chandan Sengupta, eds. *Mainstreaming Human Security: Asian Perspectives*, Bangkok, Thailand: Chula Global Network, 2012, pp. 16-29; and “Driving East Asian Regionalism: the

Reconstruction of ASEAN's Identity,” in Ralf Emmers, ed. *ASEAN and the Institutionalization of East Asia*, Boulder: Routledge, 2012, pp. 61-74 がある。

#### ラム・ペン・ア (第4章)

シンガポール国立大学東アジア研究所上級研究員。防衛研究所招聘研究員(2009年12月～2010年3月)。コロンビア大学で博士号取得。最新の著作に *Japan's Peace-building Diplomacy in Asia: Seeking a more active political role* (New York and London: Routledge, 2009) がある。

#### ティティナン・ボンスヒラ (第5章)

安全保障国際問題研究所 (ISIS) 所長兼チュラロンコーン大学政治学部教授。ジョン・ホプキンス大学・スタンフォード大学客員研究員。専門はタイの政治経済、対外政策、メディア、ASEANと東アジアの安全保障と経済協力。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで博士号取得。最近の研究業績として “Thailand’s Uneasy Passage,” *Journal of Democracy*, April-June 2012; “Thailand” in Ann Capling and Patrick Low (eds), *Governments, Non-State Actors and Trade Policy-Making*, Cambridge, UK: Cambridge University Press, 2010 “Between Continuity and Change: Thailand’s Topsy-Turvy Foreign Policy Directions” in *Global Asia* がある。

#### カーライル・セイヤー (第6章)

豪ニューサウスウェールズ大学名誉教授。ブラウン大学、イエール大学、オーストラリア国立大学で学位を取得。王立軍事大学で教鞭をとり、米太平洋軍アジア太平洋安全保障研究センター、豪国防大学国防戦略研究センター、豪指揮幕僚大学での上級ポストを歴任。ジョンホプキンス大学(2005年)、オハイオ大学(2008年)でそれぞれ優秀(distinguished)客員教授に任じられた。450を超える著作のなかには *Southeast Asia: Patterns of Security Cooperation* (2010), *Vietnam People’s Army: Development and Modernization* (2009), and *The Vietnam People’s Army Under Doi Moi* (1994) がある。

### テイン・モン・モン・タン (第7章)

シンガポール東南アジア研究所 (ISEAS) 上級研究員。ミャンマー国籍。ロンドン大学東洋アフリカ研究所で博士号取得 (政治学)。研究領域は、開発の政治経済学、途上国の民主化と民軍関係、人間の安全保障、核拡散、ミャンマーの国内政治と経済。主な研究業績として *State Dominance in Myanmar: The Political Economy of Industrialization* (Singapore: ISEAS, 2007); “Mapping the Contours of Human Security Challenges in Myanmar,” in N. Ganesan and Kyaw Yin Hlaing eds., *Myanmar: State, Society and Ethnicity* (Singapore SEAS, 2007); “Myanmar in 2008: Weathering the Storm,” in *Southeast Asian Affairs 2009* (Singapore: ISEAS, 2009) がある。

### マシバト・オトゴンバヤル・サルラグタイ (第8章)

モンゴル戦略研究所 (ISS) 副所長兼研究部長。1998年にモンゴル国立大学法学士、2007年に米海軍大学院国家安全保障修士を取得。1996～1998年にモンゴル国会国家安全保障・対外問題常任委員会議長補佐を務める。専門はチベット、PKOから朝鮮半島問題まで幅広い。2010年に国会が採択した「モンゴル国家安全保障構想」起草に参画。

### サトゥ・リメイエ (第9章)

ワシントン東西センター所長兼海軍分析センター (CNA) シニアアドバイザー。防衛分析研究所 (IDA) 研究員を務めた後、1998～2005年にアジア太平洋安全保障研究センター (APCSS) 研究出版部長を務める。ジョージタウン大学外交学院を優等で修了し、オックスフォード大学で博士号取得 (国際関係論)。近著に “America's Relations with Southeast Asia: Constraints and Promise” (*Contemporary Southeast Asia*, Vol. 32, No. 3, December 2010) がある。

**浅野亮** (第 10 章)

同志社大学教授。専門は中国の安全保障政策、対外政策、国際関係論。近著に『肥大化する中国軍 増大する軍事費から見た戦力整備』（晃陽書房、2012年）、『中国の軍隊』（創土社、2009年）、「中国の対外政策」（『海外事情』56(2)、2008年）がある。

**佐竹知彦** (第 11 章)

防衛研究所政策研究部防衛政策研究室教官。専門は同盟研究、アジア太平洋の安全保障、日本の防衛政策。慶応大学で学士・修士号、オーストラリア国立大学で博士号取得（国際関係論）。主要業績として“Japan, Australia and International Security Burden-sharing with the United States,” in William Tow and Rikki Kersten (eds), *Bilateral Perspectives on Regional Security: Australia, Japan and the Asia-pacific Region* (Palgrave Macmillan, 2012); “The Origin of Trilateralism? The US-Japan-Australia Security Relations during the 1990s,” *The International Relations of the Asia-Pacific*, Vol. 11, No. 1, 2011; and “Japan’s Nuclear Policy: Between Non-nuclear Identity and US Extended Deterrence,” *Austral Policy Forum*, 09 12-A (May 2009) がある。



**発行者 防衛省防衛研究所**

153-8648 東京都目黒区中目黒 2-2-1

TEL: 03-5721-7005 (内線 6588)

FAX: 03-3713-6149

Email: [planning@nids.go.jp](mailto:planning@nids.go.jp)

Website: <http://www.nids.go.jp>

ISBN: 978-4-939034-98-5

本書で表明されている見解は、各執筆者個人のものであり、各執筆者の所属機関や政府の見解を代表するものではありません。

Copyright © 2012 The National Institute for Defense Studies

本書の全部または一部について、形態や手段を問わず、複製、情報検索システムによる保管、転送を行う場合には発行者からの書面での許可が必要です。

翻訳協力・印刷：株式会社アーバン・コネクションズ